



例会には森副会頭（前列中央）も参加している

うと定着しないという問題は、すでに
単年度で行つていた川柳事業を深掘
りして発展させました。そして、そこ
に行政を巻き込んですさまじいスピー
ド感で実行する親会の力の大きさを
実感させられたのです。今では、Y
EGの集まりでも「ここ」で一句」と川
柳で盛り上がるなど、継続事業として
の定着感も出てきたようである。

また、森副会頭は、「YEGの実行
委員は自分の仕事がある中で、川柳
の応募用紙を持つて各学校や事業所
へお願いに上がり、集まつた句は実行
委員会で審査、フォローアップ、発表
のようないい実働がどうしても必要にな

るため、実行委員会メンバーは本当に大変だったと思う」と労をねぎらい、こう意気込む。「川柳に関して言うと、第一生命が毎年実施している『サラツと一句!わたしの川柳(サラリーマン川柳)』の応募数を抜きたい。いい目標になると思う。さらに岡山を代表する食べ物「ばら寿司(晴寿司)」の普及やイベントの開催など、まだまだYEGが活躍できる可能性のある場は広がっているという。

「今、岡山YEGは会員数300人を超える大きい単会になつており、これをまとめようすると何か一つ柱になるとわかるものが必要。YEGの先輩方が岡山市民の日を立ち上げた。このこと

の人に入つてもらい、より連携しやすい体制だと思う。YEGの若い力で実行力を高めてくれると非常にありがたい。歴代の会長が議員になつて、YEGとのつながりを保つていて「のが岡山の特徴と思つてゐる」と森副会頭。継続的に事業を進めていけるのは、親会とYEGとの相互性があることだと納得させられる。

「岡山市は人口70万人。不思議なくらいいつぶれる企業が少なく、その子弟が継ぐ。古くからの人間関係の中で、将来継ぐであろう人がYEGに入り、親から聞いていることを考えながら活動している。若い起業家の皆さんにはつながりがあつて、どこに行つても同

つながりを生かせる実行団体へ

現在、森副会頭には例会に参加してもらい、親会との距離感はとても近く感じている。一方、親会にYEG出身の議員が増えていて、関係性は年々強くなっている。「会長が代わっても、継続事業として岡山市民の日がある」ということは分かりやすく、協力しやすい。親会の委員会にもYEG出身

「商工会議所も、会議はするが実行に移すことがなかなか難しい時代があつた。しかし、YEGが参画するようになつて実行できる機会は間違いなく増えた。ギラギラしたYEGの皆がどんどん実行してくれることは大変



猪原 英和 (熊谷YEG)

「藍と青」をご覧いただきありがとうございます。
岡山YEGの取り組みはいかがでしたか。継続事業「愛ラブおかやま川柳」を一本の柱として活動し、その実行力を親会が評価して後押ししていくという関係性がとてもすてきだと感じました。
岡山市が好きな私にも川柳の応募資格がありそうなので、ここで一句。
「年パスで ゼいたく散歩 後楽園」
「桃太郎の 気分で配る きび団子」
「親と子の 絆はぐくむ 市民の日」

会頭	.. 松田 久
会員数	.. 7400人
創立	.. 1879年12月
住所	.. 岡山市北区厚生町3-1-15
スローガン	.. 「稼ぐ」う 守ろう 続けよう
会長	.. 古市 聖二郎
会員数	.. 312人
創立	.. 1993年4月
スローガン	.. 「E.S.R」OKAYAMA

 

HPはこちら

HPはこちら

助かる。YEGは実行してこそ。年度ごとに会長が代わるところがほとんどだと思うが、営業活動するがごとく、会頭と会長が話す場を設けるなどのコミュニケーションは必要」。森副会頭の熱い言葉どおり、岡山の地元愛が育んだ関係性と継続性が、親会とYEGをより密に結び付けている。

「岡山つて地元愛が希薄だつたんです」。そう口火を切るのは、現在、岡山YEG（以下、YEG）を担当している岡山商工会議所（以下、親会）の森健太郎副会頭だ。「大きな祭りもなく、『晴れの国おかやま』と呼ばれている通り、歴史的に見ても天災などが少なかつたことも原因の一つかもしない」と話す。これまで表立つて地元愛を表現する機会がなかつたのだという。

そこで年に一度、郷土・岡山への理解と関心を深め、愛着と誇りを育み、魅力あるまちづくりを進めるきっかけとなるよう制定されたのが「岡山市民の日」だ。今ではこの日に向けて地元愛を表現しようと、地域の皆が大いに盛り上がる。その運営にはYEGが深く関わっているというのだ。

「岡山市民の日」制定を提案

温暖で晴れの日が多いことから「晴れの国」と呼ばれる岡山県。その主要都市・岡山市では今、地元愛を表現する動きが活発だ。その活動のもり立て役となつた岡山商工会議所と岡山YEGの過去と現在、そして未来の姿を探つた。

青年部の一事業か
親会や自治体を巻き込んで
「地域文化」をつくり上げる
までになつたワケ



駅前で「岡山市民の日」をPR



「愛ラブおかやま川柳」の表彰式

卷之三

募集するジャンルは、観光・食・フリー（何でもあり）部門としやれつ気が利いている。応募資格も岡山市が好きな人（市外在住者も含む）と幅広く、年末年始という募集期間も、帰省した人や冬休みの学生たちが大いに取り組める要因の一つだ。

応募された句の内容を見てみると、「晴れの国」「きびだんご」、新幹線が停車することなど、岡山での日常風景や、特産品の名称などが盛り込まれている。川柳を通して、地元愛にあふれ、地元愛が育まれていることが

今年度のYEGフラッシュは、商工会議所（親会）とYEGの良好な関係をご紹介します。タイトルの「藍と青」は、渋沢栄一翁の生家の家業が藍農家であったことから、藍を親、青をYEGとし、一般的にいわれる師弟のことではなく、「君子曰く、学は以て已（や）むべからず（学問は中断してはいけない。努力すればするほど精錬されて優れたものになる）」という本来の意味に立って取材します。